

シカに食べられない苗木を求めて ~オオバアサガラの魅力~

日光森林管理署 森林技術指導官 野口 光三

日光森林管理署が管理する国有林は、そのほとんどがニホンジカ（このポスターでは「シカ」という。）の生息密度が高い地域であり、シカによる造林木の食害が大きな課題となっている。

また、分収林を中心に主伐期を迎えており、皆伐後に再造林する際は、高いコストをかけて苗木を保護しなければならない。

このような現状の中、シカに食べられない「夢」の苗木がないか探していたところ、シカの高密度生息地域ではオオバアサガラ（エゴノキ科の落葉高木）がシカの食害を受けずに純林となっている事象が多く見られたことから、オオバアサガラの生育状況を調べ、その魅力や可能性、今後への取組について紹介する。

シカの食害から苗木を守るには（現状と課題）



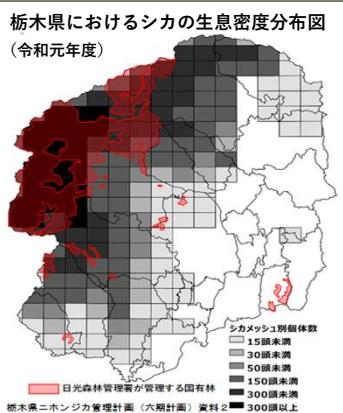
写真のようなネット柵は設置後にシカが絡まつたり、倒木や落枝、土砂で流されたりと柵が損傷するおそれがあり、定期的なメンテナンスが必要。急傾斜地ではシカが柵を飛び越えて侵入する（将来は撤去が必要）



写真のような単木保護はネット柵に比べてメンテナンスの負担は少ないが、高いコストが課題（将来は撤去が必要）



シカやクマの被害を受けたスギ壮齢林（収穫するまで保護対策が必要）
林床には、オオバアサガラなど、シカやクマの不嗜好植物以外は見られない



オオバアサガラには、どんな魅力があるの？

オオバアサガラ（大葉麻殼）とは…エゴノキ科アサガラ属の落葉高木
大きな葉の「麻殼」の意味で、樹木の材質がもろく折れやすく、皮をはいた麻の茎「おがら」のことからこの名がある

明るい造林地や川原、林道沿いなどに多く見られる先駆種で、成長が早く高木に育つ



大きな葉と、美しい白い花が特徴



ぶどうの房状に実る種子



伐採跡地に発生したオオバアサガラ



新植地に発生したオオバアサガラ



植栽木（ネットで保護）を被圧するオオバアサガラ



下刈実行中（刈り払うのは密生したオオバアサガラ）

- 魅力**
- ・シカやクマに食べられない（食害があっても僅か）
 - ・自然に芽生えて、ある程度までは大きく育つ
 - ・驚異の萌芽力
 - ・在来種であり、生態系への影響が少ない

- 欠点**
- ・先駆種であり短命？太さは最大でも30cm程度か
 - ・材質がもろく、用材としての利用は僅か（床柱になると言われているが、床柱の需要そのものは少ない）



標準地（10m×10m）本数：19本、材積：1.41m³



樹高1.3m



胸高直径：20cm

オオバアサガラは、川原や林道わき、造林除地などで純林が見られる
標準地を設けて毎木調査を行ったところ、ヘクタール当たり1,900本、1.41m³の蓄積があった



間伐後の林内に発生したオオバアサガラ
(残存木にはクマ剥ぎが発生)



驚異の萌芽力
(伐り株から多数の萌芽)

今後の取組と必要な検証

取組

- ・種子の直播による更新の可能性を探る
- ・山引苗による更新の可能性を探る
- ・このほかに有用な樹木がないか探索する

検証

- ・バイオマス資源としてのポテンシャルは？
- ・何年まで成長するのか（伐期の設定は？）
- ・本数管理が必要か否か？



採取した種子（採取比較的容易）



発芽試験（覆土前の写真）



種子の直播による更新の可能性を試験